

鹿児島市立まちなか図書館（仮称）基本計画

令和元年12月

鹿児島市

目 次

1	はじめに（目的）	1
2	基本コンセプト	2
3	基本方針	2
4	サービス計画	4
5	蔵書計画	6
6	空間計画	8
7	管理運営計画	12
8	再開発ビル内の官民連携	13
9	整備スケジュール	14

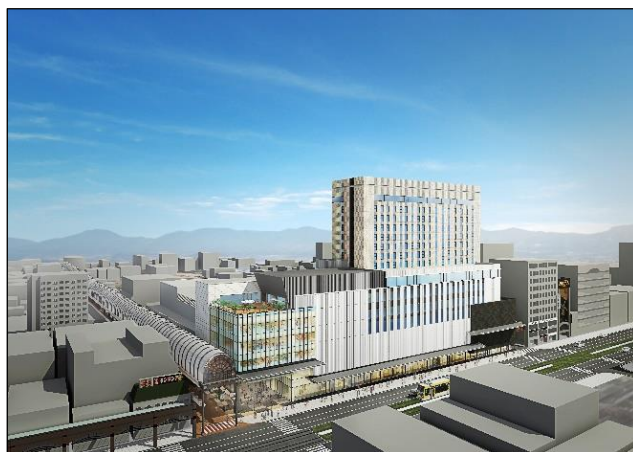
1 はじめに（目的）

本市は、中心市街地のにぎわい創出につながる公共空間の在り方等について、平成30年度に検討を始め、子どもの遊び場や図書館、カフェ等を併設した開放的な空間を整備して活性化につなげている他都市事例の研究や、市民や天文館地区の商店街関係者の方々とのワーキンググループの開催等を通じて検討を重ねてきました。

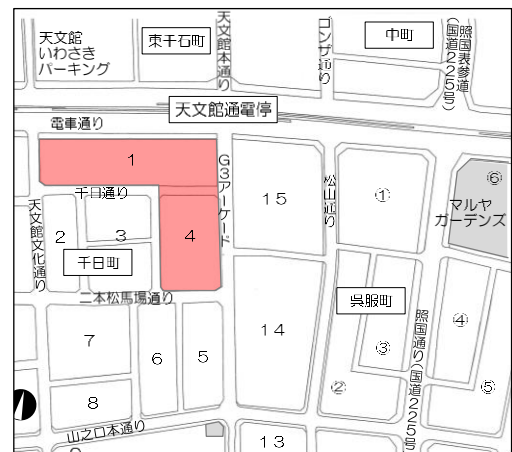
そして、天文館地区に整備予定の再開発ビル内に、商業施設と一体となった公共空間（図書館は市所有、子どもの遊び場・カフェは民間所有）を、官民が連携して創出する方針を決定しました。

この方針を受け、平成30年度末には、多くの市民や専門家から意見や助言等をいただきながら、市民の文化の発展等とともに、中心市街地のにぎわい創出を図ることを目的に整備する図書館の基本的な考え方等を取りまとめた「まちなか図書館（仮称）基本構想」（以下「基本構想」という。）を作成しました。

本計画では、基本構想に定めた基本コンセプトや基本方針に沿って、鹿児島市立まちなか図書館（仮称）（以下「まちなか図書館」という。）のサービスや空間、管理運営等について、より具体的な方向性を検討します。



全体イメージパース



千日町1・4番街区再開発ビル位置図

2 基本コンセプト

まちなか図書館は、市民の教育の振興と文化の発展とともに、中心市街地において、にぎわいを広げる「まちづくりの推進力」となることが期待されています。

幅広い世代の人々が集う場となり、共に学び成長できる拠点となるよう、次の基本コンセプトを掲げます。

「みんなをつなぐ図書館」

～新しい価値を創造・発信する、多様なつながりを育む図書館～

3 基本方針

まちなか図書館の基本コンセプトを実現する基本方針等を次のとおり定めます。

(1) 基本方針

① 誰もが利用しやすい居心地のいい図書館

図書館を訪れた利用者が、それぞれの目的に応じて、快適に過ごすことができる空間を創出します。

② 市民の活動と地域のまちづくりを支援する図書館

本からつながる市民活動等に対しての創造の場を提供するほか、図書館と利用者が連携したイベントを開催するなど、地域のまちづくりにもつながる幅広い分野の活動や市民の交流を育む図書館を目指します。

(2) まちなか図書館に求められる機能

基本方針に基づき、求められる機能を以下のとおり定めます。

知をつなぐ	図書館の資料や情報を共有し、利用者自身も情報を発信してそれぞれの知をつなぐ機能
人をつなぐ	居心地のいい空間で思い思いに過ごしなが、それぞれが知り合い、交流する場となる機能
活動をつなぐ	市民活動に必要な情報や、活動の発表・共有の場や機会を提供し、新たなつながりを育む機能
地域・まちをつなぐ	地域発の情報等を通じて利用者の中心市街地等への回遊を促す機能
未来につなぐ	子どもたちの成長を支援し、学びや活動の場となるとともに、活動の成果や記録を情報として伝えていく機能

(3) まちなか図書館の利用者

まちなか図書館の利用者は、いづろ・天文館地区を含む中心市街地の回遊性の更なる向上やにぎわい創出の観点から、既存の図書館利用者や再開発ビルへの来街者も含めた幅広い世代の利用者に加え、特に拡大したい利用者層を次のとおり想定します。

特に拡大したい利用者層

- ・中高生、大学生、若者（若者層）
- ・社会人（ビジネス層）
- ・子どもと保護者（ファミリー層）

4 サービス計画

まちなか図書館では、図書の貸出や返却、相談業務など従来の基本的なサービスのほか、子育て支援の要素を含めた誰もが居心地よく過ごせる空間の提供や、にぎわい創出にもつながるイベントの開催など、市民交流の促進や学びと創造活動の拠点づくりを支援するサービスを行います。

(1) 図書資料・情報の提供

利用者全般向けの一般図書のほか、まちなか図書館の蔵書計画にあわせた図書資料や地域の情報等を、タブレット端末の活用も含め効果的に提供します。

(2) 図書の貸出・返却

まちなか図書館の図書の貸出・返却はもちろん、市立図書館・公民館図書室の予約本の貸出・返却ができます。

(3) 充実したレファレンス（相談）の実施

図書資料に関する一般的な相談への対応や、相談内容に応じた関係機関の紹介等を行うほか、館内外の総合案内や情報提供など、きめ細かいサービスを行う「図書館コンシェルジュ」を設置します。

(4) 思い思いに過ごせる館内環境の提供

利用者それぞれの過ごし方に対応するために、にぎわいのある空間と落ち着きのある空間を緩やかにつなぎ、それぞれが思い思いに過ごせる多彩な館内環境づくりを行います。

(5) カフェと一体となった居心地のいい空間の提供

併設されるカフェとの一体的な運用等を行い、一定の条件のもとにコーヒー等を持ち込むなど読書や会話がはずむ空間づくりを行います。

(6) 子どもが楽しく過ごせる学びの遊び場の提供

子どもが遊びながら本と触れ合い、子ども連れの方も気兼ねなく自由に読書や読み聞かせを楽しめる空間づくりを行います。

(7) 市民の創作活動を紹介するギャラリーの設置

市民やグループ等が創作した作品等を展示するギャラリーを設置します。

(8) 利用者等による情報発信

利用者や地元商店街の事業者等がおすすめる本の紹介や展示等による情報発信を通して、利用者間の情報交換や交流活動につなげます。

(9) 多彩なイベントの開催

本やまちづくりに関連したワークショップや市民活動の発表など、多彩なイベントをオープンなスペースで開催します。

(10) 市民の創作活動への支援

鹿児島の魅力や歴史・文化に関する小冊子やパンフレット、自分史、ZINE（個人や友だち同士でつくる簡易な小冊子）づくりなど、市民の創作活動への支援を検討します。

(11) 多様な担い手との連携

利用者が自主的に取り組む活動の場を提供するとともに、多様な担い手と連携し、イベント等を企画・運営する取り組みを検討します。

5 蔵書計画

(1) 基本的な考え方

幅広い世代が気軽に読める本を中心とした構成とし、市立図書館の資料収集方針との整合性を図りながら、テーマ性のある本の配架や電子書籍の導入に向けた対象範囲・取り扱い等について検討します。また、利用者や周辺の事業者等と連携した取り組みも検討します。

(2) 蔵書の収集対象

一般に流通している書籍・雑誌や新聞等だけでなく、パンフレット類やフリーペーパー、ZINE等の様々な紙媒体を収集対象として検討するほか、サービスの拡充や省スペース化を図る観点から、デジタル・アーカイブやデータベース、多言語資料等を含めた電子書籍を提供することを検討します。

(3) 蔵書の構成

利用者全般向けの一般図書を基本に、若者層・ビジネス層・ファミリー層に関心が高いと想定されるジャンルに重点をおく蔵書構成とします。

また、新聞・雑誌は電子機器を活用するなど省スペース化を工夫して収集することを検討するほか、国内外の観光客向けの資料や、在住の日本語以外を母語とする利用者を想定した多言語の資料、学習効果・社会的な評価が高いと考えられる漫画の収集を検討します。

【蔵書の構成イメージ】

図書資料種別	概要（説明・例示）
若者層向け	十代から二十代の若者層へ向けて、ファッション、音楽、ライフスタイル等の情報のほか、将来の進路（就学・就職）に役立つ図書資料

	を中心に収集します。
ビジネス層向け	資格取得や起業、経営、投資、先端技術等に関することなどビジネス関連の図書資料を中心に収集します。
ファミリー層向け	子どもの創造力や知的探求心を刺激する観点も重視するとともに、子どもと一緒に楽しめるものとし、育児・教育、衣食住など子育て世代のライフスタイルに合う図書資料を中心に収集します。

(4) 蔵書の収集方法

再開発ビル内の民間事業者、周辺書店をはじめとした多様な主体と連携しながら図書資料を収集するほか、市が定める資料収集方針のもとで選書を行うことを基本に、利用者の意見も取り入れて選書を行うなど、新たな仕組みづくりを検討します。

(5) 配架

本を手にとってみようと興味・関心を持ってもらえるよう、テーマ別、作家別での配架についても検討します。

館内で実施するイベント・講座に関連したコーナーや、再開発ビル内の店舗と連携したコーナー等の設置、図書館内だけでなく併設されるカフェ等への配架も検討します。

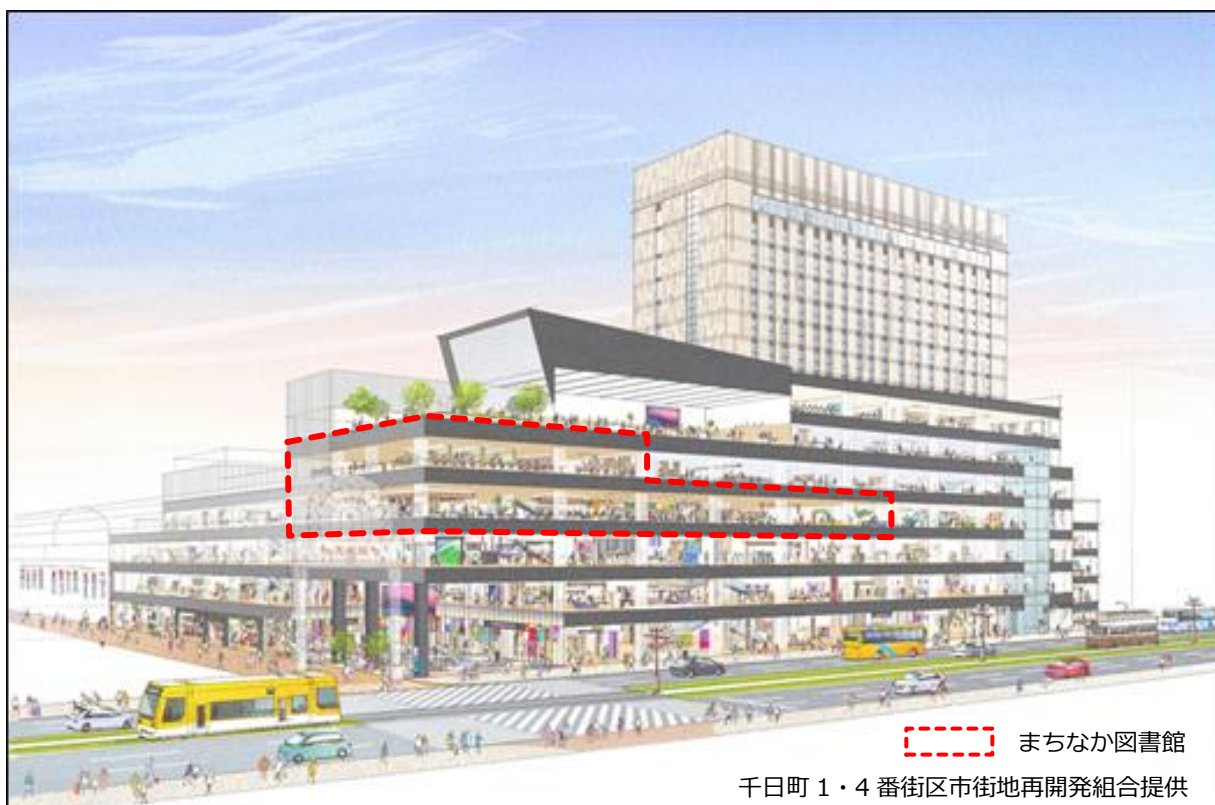
6 空間計画（施設配置/動線/インテリア計画）

（1）基本的な考え方

にぎわい活動ゾーンや学習・閲覧ゾーンなど4つのゾーンを緩やかにつなぎ、それぞれの目的に応じて、幅広い世代が利用しやすい居心地のいい空間を創出します。

また、バリアフリーや、わかりやすい絵文字の利用、外国語の表記など、誰もが安全に安心して利用できる施設となるよう配慮した計画づくりを行います。

■全体イメージパース

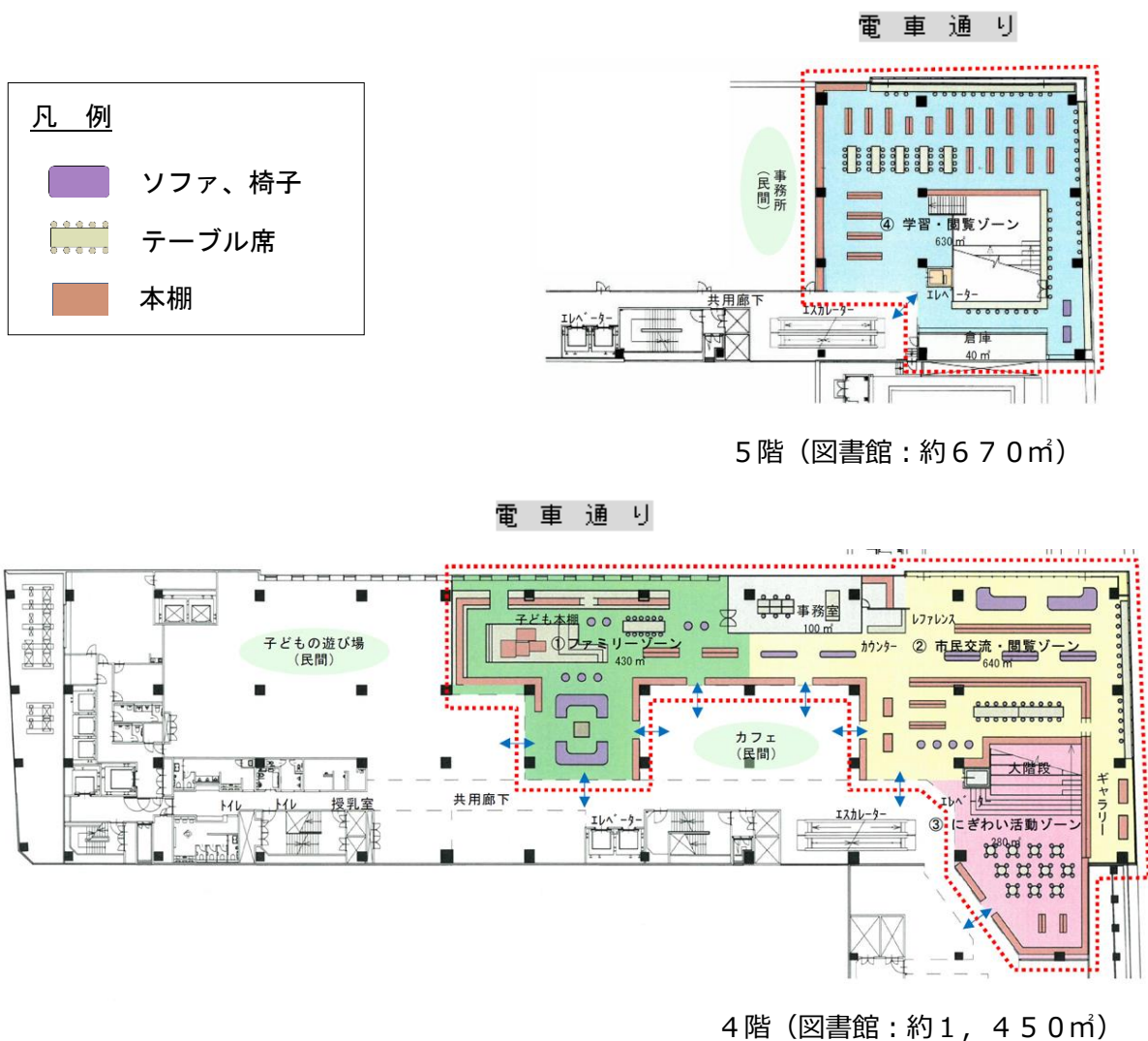


(2) 空間配置 (ゾーニング)

4階は、市民交流の促進やにぎわい創出等を重視した3つの空間を、5階は、調べものなどの学習に適した落ち着いたあるゾーニングとします。

各空間は通路や階段で結び、緩やかなつながりのある空間とするほか、利用者の使いやすさに配慮します。

■ 平面図



(3) 書架・インテリア

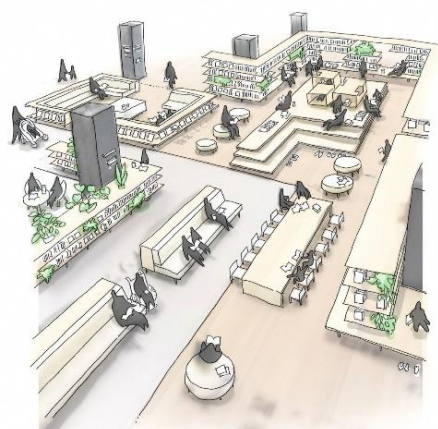
4つのゾーンそれぞれの特徴にふさわしいデザインとしつつ、全体として調和のとれた空間を目指し、家具や什器、照明は、使いやすさなど利用者の滞在満足度を高める空間デザインとします。

また、限られた広さの中で、ゆったりとした居心地のよさを確保するため、書架・インテリアは、背板のない書棚や高さを抑えた書棚の検討等を行い、開放性を高めるデザイン・構造となるよう配慮します。

(4) 空間イメージ

① ファミリーゾーン

4階の子どもの遊び場と
カフェの間のゾーン。
主に子ども向けの本を配架し、
読み聞かせ等を楽しむことが
できます。



② 市民交流・閲覧ゾーン

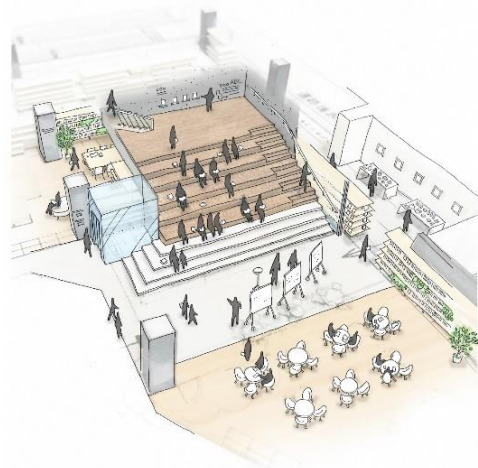
4階の大階段横から奥の窓に
かけてのゾーン。
おすすめ本紹介等の情報発信
コーナーや、市民の作品等を
展示するギャラリーを設置し、
それらの情報や本をくつろいで
見ることができます。



③ にぎわい活動ゾーン

4階と5階を緩やかにつなぐ
大階段空間とその前面に広がる
ゾーン。

本の閲覧のほか、おすすめ本の
書評会等のイベントや、
ワークショップを行うことが
できます。



④ 学習・閲覧ゾーン

4階の大階段からつながる
落ち着いたある5階のゾーン。
書架が並び、学習・閲覧の場
として利用できます。



7 管理運営計画

(1) 基本的な考え方

再開発ビル内の商業フロアに設置し、図書館の基本的な機能に加えて、にぎわい創出にもつながる多様なサービスの提供なども行うことから、民間事業者のノウハウを活用する指定管理者制度の導入も含めた管理運営方針を検討します。

あわせて、市民の活動等を支援するため、利用者自身がまちなか図書館の企画運営に参加し、活動する体制の検討を行います。

(2) 開館時間

再開発ビルの営業日・営業時間や、市民ニーズ、公共サービスとしての合理性・効率性等を総合的に勘案して定めます。

(3) 危機管理体制

災害発生時には、再開発ビル内の共通ルールに則り、利用者等が安全に退避できるよう、あらかじめ危機管理マニュアルを作成します。また、マニュアルに沿って定期的な訓練を行うなど、スタッフへの周知を徹底します。

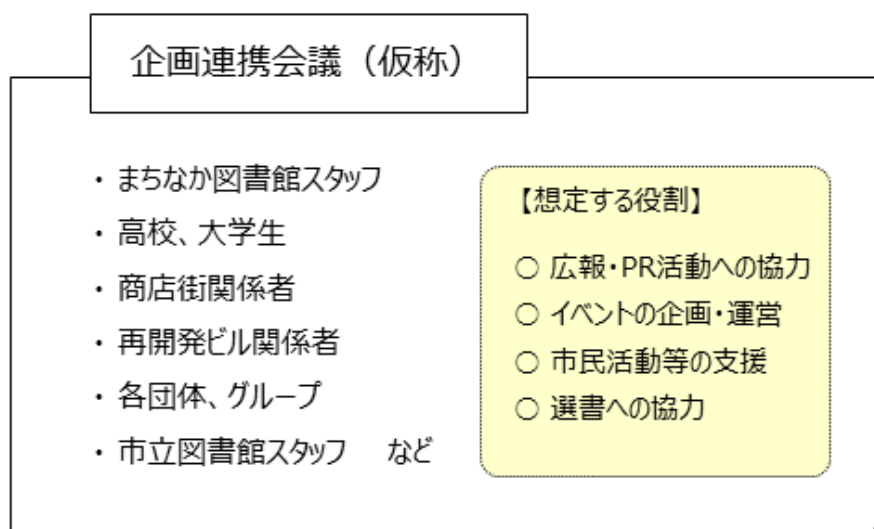
(4) ICT (※) の活用

無線LAN等のインターネット環境の整備やデジタルサイネージによる情報発信等のほか、効率的な管理運営を行うため、ICタグや自動貸出機等のICT設備の導入を検討します。

※「Information and Communication Technology」(情報通信技術)の略

(5) 企画運営体制のイメージ

にぎわい活動ゾーン等で実施するイベントの企画・運営や広報活動の充実等を目的として、市民や事業者等が参加する体制の検討を行います。



8 再開発ビル内の官民連携

基本構想に掲げた連携方針に基づき、再開発ビル内の各事業者との連携を検討し、利用者の利便性の向上等を図ります。

(1) 魅力ある施設づくりに関する連携

例：壁のない一体的な空間、魅力ある合同イベントの開催等

(2) 管理運営面の連携

例：開館時間の統一、共有スペースの共同利用等

(3) サービス向上に関する連携

例：カフェへの本の持ち出し、図書館内への飲物の持ち込み等

9 整備スケジュール

まちなか図書館の整備については、再開発ビルの事業主体となる再開発組合と十分調整を図りながら進めます。

令和元年度	基本計画作成（市）、図書館の設計（再開発組合）
令和2年度	造作家具の設計等
令和3年度	内装及び造作家具工事
令和4年春	供用開始